

保育者養成校における実習に関する研究 — 模擬保育の意義に着目して —

阿 部 アサミ¹

問題の所在

保育者養成校の学生には、教育実習が大きな課題である。学生は、保育者への憧れと幼児に触れ合える期待をもちながらも、未体験の場である教育実習に不安や緊張感を抱く姿が多く見られる。また学生によっては、ボランティアで幼児とかかわりをもつ経験があっても、部分実習や責任実習に対しては漠然とした不安を抱く姿も見られる。

教育実習に送り出す側の保育者養成校としては、教育実習といえども学生が子どもとかかわる際には、人的環境として幼児の年齢や発達を捉えながら子どもと接し、子どもと保育者から学ぶ努力をしてほしいと考えている。また学生は未熟さもあると同時に、フレッシュさももち合わせているので、保育者の子どもに接する言動から言葉かけや援助の方法を学び、学生自身の課題を見つけてほしいと願っている。

保育者養成校は、保育・教育実習の事前学習において、幼児の発達や個人差、幼児の遊びや活動・教材などの理解を促し、保育指導や援助の在り方について指導にあたっている。また、保育者としての知識と実践的な技能を身につけるようにすることで、学生に教育職への責任と幼稚園免許の付与という重みを知らせている。授業を通して具体的な理解へとつなげて

¹ 白鷗大学教育学部

教育実習への不安をとり除くと共に、学生自身が学ぼうとする姿勢を育もうとしている。学生は幼稚園の役割や保育者としての指導技術等を学び、実習に向かう期待や意欲を高めていくことが望ましいと考える。また、実際に幼稚園で教育実習を行う際には、積極的に幼児と触れ合い、教材の準備や学習事項の整理・記録共に、自分自身の健康を維持して謙虚な姿勢で学ぶことが学生に求められている。保育者養成校は、学生に保育者としてあるいは社会人としての使命感や自覚を促し、その場にふさわしい態度や言動等を総合的に培うようにしていくのである。

保育・教育実習の授業の「目的」としては、理論と保育実践との結びつきを図り、保育者としての資質—知識・技能・理解—を高めることである。その事前授業の内容の一つとして、模擬保育を取り上げている保育者養成校があり、模擬保育に関する研究活動が進められている。

そこで、本論文では模擬保育に視点をあて、模擬保育を通して学生は何を獲得するのか、これまでの研究で明らかになっている模擬保育の意義を分析・検討する。

方法

CiNiiに収集されている模擬保育に関する41件の論文から、機関リポジトリ及び学会掲載論文と、一部保育者養成校の論文17件を分析する。それぞれの論文の概要については、今回は省くこととする。本稿は各論文の研究を分析し、模擬保育を通して学生が獲得していること、及び保育者養成校が模擬保育を通して学生に育てたいことについて、独自の分類から捉えた分析し言及することを目的とする。

I 研究のキーワードとして示されている言葉

環境構成、模擬保育、指導計画案、保育者養成、保育者養成課程、保育実習Ⅱ、身体表現、幼児、ふりかえり、保育実践力、即応力、施設実習、PDCAサイクル、実習指導、省察、ビデオカンファレンス、

理論と実践の融合

〈分析・結果〉

この項目から見えるのは、同じ「模擬保育」でも重要視しているキーワードが違うことから、模擬保育の内容の多様さが分かることである。

Ⅱ 対象者と教科

(1) 対象者

- ①短期大学1年生 ②大学2年生 ③大学3年生 ④大学4年生

(2) 教科

- ①教育実習 ②教職実践演習 ③教育方法論
④領域・表現 ⑤乳児保育Ⅱ

〈分析・結果〉

収集した論文では、短大の2年生、大学の1年生には模擬保育が行われていない。なぜなのか、他の論文も検討・把握していく必要がある。また、実習に関する授業以外でも模擬保育が行われていることが分かる。様々な教科で多面的に学生の実践体験を取り入れることで、実践力を伸ばしている意図が見える。

Ⅲ 模擬保育の目的

- ・「学生が初めての实習に臨むにあたって、彼らがどのような点を意識しているのか、またどのような点に意識が向いているのかを把握し、今後の学生教育に役立てる」²
- ・「具体的な保育内容を考案、指導案作成、実践、考察のサイクルを体現し、保育の質の向上において重要な省察する姿勢を身につけ、保育士養

² 中藤広美・鷺野彰子(2015)「実習前教育における学生教育の課題と方法ー環境構成に関する学生の理解状況を踏まえてー」, 福岡県立大学人間社会学部紀要24(1), 17-31

成で重視する「反省的実践家」となる一助とする」³

- 「模擬保育後に行う『ふりかえり』をその後の指導に有効に生かしていくことの重要性が示唆されている。(中略)この『ふりかえり』に着目し、活動後の『ふりかえり』の役割とその後の指導にどのようにいかされたか、事例をもとに検討した。」⁴
- 「保育者養成段階における保育実践力の即応力に着目し、模擬保育の効果を検証することを目的とした。」⁵
- 模擬保育時に自己・他者評価調査を行い、模擬保育の有効性、及び実践力の養成との関係について検証することを目的とした。⁶
- 造形の模擬保育体験を通して、学生が様々な視点から子どもの造形表現を伸ばしていくことができる保育者としての配慮について学ぶことができるかを検証することである。⁷
- 授業「乳児保育Ⅱ」における模擬保育による学生の学びの内容を明らかにし、実践力を養う授業の内容・方法の改善のために資料を得ることを目的とする。⁸
- 模擬保育を指標として保育者志望学生の保育者アイデンティティの確立の姿を明らかにするものであるが、このことは同時に、保育者養成課程

³ 中田(後藤)範子・柳瀬広美・渡邊眞理(2014)「共に育つ保育者養成」の探求2—保育実習Ⅱ(保育所実習)に向けた保育実習指導のあり方—, 東京家政学院大学紀要54, 9-23

⁴ 高原和子・小川鮎子・瀧信子・矢野咲子・下釜綾子(2014) 幼児の身体表現指導における指導実践後のふりかえりの有効性, 福岡女学院大学紀要 人間関係学部編(15), 89-95

⁵ 上村晶(2013) 保育者養成段階における保育実践力の向上に関する一考察(2), 高田短期大学紀要31, 79-88

⁶ 河北邦子(2012) 保育者養成における音楽表現指導実践力についての研究Ⅰ: 模擬保育の自己・他者評価調査を通して, 山口学芸研究3, 55-73

⁷ 松井寿美子(2004) 領域表現(造形)の授業方法に関する研究Ⅰ—造形の模擬保育における問題点—, 日本保育学会大会発表論文集(57), 134-135

⁸ 三好年江・石橋由美(2005) 授業「乳児保育Ⅱ」の模擬保育から学生が学んだこと, 新見公立短期大学紀要26, 151-160

において保育者アイデンティティの確立を促す、より効果的な授業の実践方法についての示唆を含むものであると考えられる。

〈分析・結果〉

模擬保育の目的として、保育者としての実践力や意識を高めることをねらいとしており、それは保育の質の向上へつながることが分かる。と同時に保育者養成校の授業の改善の手だてを目指していることも示唆している。

Ⅳ 模擬保育を行う時期と回数

(1) 時期

- ①実習前 ②実習前と実習後 ③施設・幼稚園・保育園実習の間

(2) 回数

- ①保育者養成校終了までに1回模擬保育を行う。
②保育者養成校終了までに2回模擬保育を行う。

〈分析・結果〉

時期は広範囲である。短期大学と大学とでは実習時期が違うことや、模擬保育は1度だけでなく、実習前後に繰り返し行うことで、より実践力の深まりが期待できると考えられていることを表している。

Ⅴ 模擬保育を演じる相手

- (1) 同じ学年の学生が保育者役と子ども役に分かれ、交代し合う。
(2) 学生が幼児と行う。
(3) 学生がそれぞれに取り組む。(自由表現)
(4) 学生が保育者役になり、違う学年の学生が子ども役になる。

〈分析・結果〉

模擬保育は学生が保育者役や子ども役などの役割を行ったり、実際の子どもと行ったりする場合がある。どちらの場合も人前で実践することに意義があることが分かる。

Ⅵ 模擬保育の時間（原文のまま）

- (1) 約8分 (2) 10分程度 (3) 15分 (4) 20分
(5) 25分程度(30分以内) (6) 30分

〈分析・結果〉

模擬保育の定義は、実技を含むことを問わなければ、模擬保育の内容によって、取り組みの時間に違いがあることが分かる。テーマや教材によって必要とする時間に違いがあり、それぞれに必要な時間の中で学生の成長を図るため設定されていると考えられる。

Ⅶ 模擬保育の形態と内容

(1) 形態

①ロールプレイ

- ・実習中に実際に遭遇した場面を演じるにより想定し、具体的な援助について考える。学生自身が前回の授業での自分の援助方法を自覚化し、次回の実習に向けた課題を見つける⁹

(2) 内容の選択

- ①学生が決める。 ②学校所有の教材を使って行う。¹⁰
③指導教諭が課題を決める。(絵本・ペープサート・自由表現)

(3) グループ決め

- ①教師側が決める。(学籍番号順)¹¹
②学生が自由にメンバーを決める。

〈分析・結果〉

全員同じテーマで模擬保育を行ったり、テーマは同じでも学生の発想を生かし内容を工夫して行ったり、学生が計画からすべてオリジナルで行っ

⁹ 中田（後藤）範子・柳瀬洋美・渡邊眞理（2014）前掲

¹⁰ 山田秀江（2008）保育実習Ⅱにおける責任実習に関する事前指導について(2)：責任実習の実際から見た事前指導のあり方，四條畷学園短期大学紀要41，47-58

¹¹ 山田秀江（2008）前掲

たりなどしていることが分かる。保育者養成校側の模擬保育の意図することや学生に育てたいことの違いから、学生の学びにも違いが表れていると考える。

VII 模擬保育の活動の設定時期

- (1) 模擬保育の設定時期を、実習時期に合わせる。
- (2) 模擬保育の設定時期は、年間どの時期でも良い。

〈分析・結果〉

短期大学と4年生大学の実習時期の違いから、設定時期を変えていることや、学生が取り組みやすい時期のテーマ（例クリスマス）を選んでいることがわかる。また実技も保育と捉えていることから、模擬保育の規定が明確でないことが分かる。

IX 模擬保育の振り返り方法及び評価

(1) アンケートの記名

- ①記名式 ②無記名式

(2) 振り返りの記述方法

- ①アンケートへの自由記述（自由記述のカテゴリー・大カテゴリー
「指導案の作成」「具体的な指導法」「音楽表現による指導表」「言葉掛け」「基礎的表現力」「教職の意義：保育者の役割」「幼児の心身の発達理解」小カテゴリー略¹²
- ②アンケートへ数字での評価（1～6の評価）
- ③自己評価シート及び実践ノートへの記録・指導案の個別指導¹³

¹² 河北邦子（2012）前掲

¹³ 清葉子（2013）模擬授業演習（幼稚園）の立案とその教育効果，椋山女学園大学教育学部紀要6，335-353

(3) 記録方法

- ①写真撮影 ②VTRを活用し分析・検討

〈分析・結果〉

アンケートは記名や無記名と違いがあり、内容の表し方も記述式と数字の評価とに別れている。模擬保育を行った後に内容を振り返り省察することが学生の育ちに意味をもつと捉え、アンケートや評価など様々な方法で行っていることが分かる。

X 模擬保育を通した学生の記述・模擬保育のまとめ・課題

(1) 学生のアンケートの記述

- ・同級生の保育活動を参考にできた。同級生と自分を比較することが出来た。自身の保育技術の向上につながった。同級生から刺激を受けた。(保育への自信がなくなった)。互いの保育技術の向上につながった。評価技術の向上につながった。子どもの反応・視点が確認できた。¹⁴
- ・事前に準備をしっかり計画をたて、ねらいや目標を達成できるよう時間をかけ、全体の保育との兼ね合いを考え、臨機応変に対応することが大切だとわかった。¹⁵
- ・導入の模擬保育活動で難しかった点①言葉づかいに関するもの「自分がルールをきちんと理解していなかったので、わかりやすく説明できるようにする」「お話の終わり方をどのようにしたらよいかわからない」「思いもよらない回答に対応できず、難しかった」¹⁶
- ・言葉掛けのカテゴリー・小カテゴリー：言葉の内容・話し方「子どもの

¹⁴ 池田充裕 (2013) 模擬保育による学生の教授力・評価力の向上に関する取り組みと課題—ビデオ撮影による自己評価とピア評価・教員評価の効果の検証—, 山梨県立大学人間福祉学部紀要(8), 61-72

¹⁵ 坂本真由美 (2015) 模擬保育を通した自己省察の試み, 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要(47), 111-116

¹⁶ 斉藤葉子・大木みどり (2012) 実習の事前・事後指導に関する研究(8) 責任実習における導入の問題と課題 (その2), 羽陽学園短期大学紀要9(2), 195-211

意欲をひきだす言葉かけ」「子どもが理解できる言葉の使用」「子どもが聞き取りやすい速さで話す」「イメージを引き出す言葉かけ」「指示を明確に伝える」¹⁷

- グループ内で意見がぶつかることもあったが、うまくそれを乗り越え、最後までやりきることができた。社会に出てからもこの経験を生かしたい。¹⁸
- リハーサルを行う、あるいは他者を参考にする過程で自分のオリジナルの工夫をするというような目的を達成する意欲は充実感に影響を及ぼし、その模擬保育を行った後に得られる充実感や達成感が保育者効力感を形成する要因のひとつである（中略）「模擬保育を楽しめた」「努力が報われた」などの充実感を表すものに比べると「自分たちの事前準備」「言葉かけの難しさ」「様々な環境づくりが難しい」など否定的と捉えられる意見が多かった。¹⁹
- 多くの学生の思考過程は、単純に子どもが「楽しい/楽しんでいない」と感じたり、子どもが何かを「できた/できなかった」と評価したりする段階にとどまらず、ねらいを達成するとはどういうことなのか、そのために自らがどうすればいいのか、それは結果的にどのような保育を提供することになるのかと考える螺旋状のプロセスをたどるのではないかと思われる。²⁰
- 「実習へ行って保育者の方々の言葉かけなどは、よく観察すべきだと思いました」(中略)「自分の発想と子どもの発想が全然違っていたので、そ

¹⁷ 河北邦子（2012）前掲

¹⁸ 山本斉（2010）保育内容（表現）における基礎的カリキュラムについての一試論—模擬保育としてのペープサートの制作をめぐる、松山東雲短期大学研究論集 40, 87-98

¹⁹ 今野亮（2009）保育者効力感に影響を及ぼす要因の検討—属性、関連要因に立脚して、国際学院埼玉短期大学研究紀要(30), 45-53

²⁰ 松山由美子（2009）保育者養成における「保育実践力」育成のための学びの場：模擬保育と学外実習に関する質問紙調査の結果からの考察、四天王寺大学紀要(49), 197-212

ういうのがあってもすぐに対応できる様にならなければいけないと思いました」²¹

- ・子ども役をやってみることで子どもの気持ちが分かったように思えた。だから保育者が子どものしぐさや気持ちを受け止め子どもを理解していくことが大切だと分かった。²²

〈分析・結果〉

模擬保育の際に計画した「ねらいや内容」への省察がうかがえる。また幼児の内面を理解する大切さや、環境構成や言葉かけなど、直接的な援助の難しさを感じている。

(2) 模擬保育のまとめ

- ・1回1回の実習の部分的な成果にのみ目を向けるのではなく、事前指導、本実習、事後、次の実習に向けての事前指導というように、学びの連続性を意識した指導が必要と考える。(中略) 実習の事後指導において、主活動のみでなく導入も含めた保育全体の見通しを持った指導案を作成するという経験は実習事前学習として有意義である。²³
- ・「ふりかえり」は次の課題をあきからにする手段として有効であった。しかも「ふりかえり」が個人だけではなく、グループや全体で討議することで「ふりかえり」の内容も深くなっていった。(中略)「ふりかえり」が学生の気づきを促すきっかけになることが示唆された。²⁴
- ・①活動を見つめなおす省察力が向上したこと、②実習場面において、子どもの心情理解に関する見とり力や、計画立案・実践などの即応力が向上した。(中略) 見とり力、省察の向上に効果があることが見直された。²⁵

²¹ 松山由美子(2009) 前掲

²² 三好年江・石橋由美(2005) 前掲

²³ 中田(後藤)範子・柳瀬洋美・渡邊眞理(2014) 前掲

²⁴ 高原・小川・瀧・矢野・下釜(2014) 幼児の身体表現指導における指導実践後のふりかえりの有効性, 福岡女学院大学紀要 人間関係学部編(15), 89-95

- ・教員による指導案の添削内容。(中略)模擬保育後の指導案の修正による分析添削箇所の変化(中略)保育者として子どもに関わる上で重要な基盤となるのは、「子どもの様子」「子どもの姿」から子どもを理解することである。²⁶
- ・①実践経験者は、活動全般の良さ・改善点や自分自身の援助の在り方、子どもの様子に着目した学びを得ること、②子ども経験者は、模擬保育への参加を通して子どもの内面推測に関する学びが多かったこと、③観察経験者は、子どもの声かけなど、保育活動の表面的側面に関する学びを得ていたことが見出され、模擬保育の立場によって得られる学びの質が異なっていたことが示唆された。²⁷
- ・お互いの模擬保育を体験し、評価をフィードバックし合うことを通して学生同士の協同的な学びの役割を果たしていることがわかった。
- ・「発表グループの保育のねらいは何かをとらえることが難しい」との回答があった。(中略)第三者から何をねらいとしているのかわかるような保育を目指したい」
- ・①実習に役だった ②成長できた ③多くの学びがあった ④自分に課題が得られた(詳細略)²⁸
- ・「導入」は実践において幼児の心をつかみ、活動への糸口や活動に興味をもたせ、活動に取り組んでいく伏線となる役割を果たしていると考え。(中略)他の学生の発表を客観的に見ることが出来ており、以前には気付かなかった「自分が幼児だったら」という視点を認識して活動を振り返っている様子が見られる。(中略)幼児の興味・関心・楽しさ・イメージを引き出さなければ、主体的な幼児の遊びを展開することはできない。幼児が主体的・意欲的に自由にイメージを膨らませ、遊びの世界

²⁵ 上村晶(2013)保育者養成段階における保育実践力の向上に関する一考察(2)、高田短期大学紀要31、79-88

²⁶ 中田(後藤)範子・柳瀬洋美・渡邊眞理(2014)前掲

²⁷ 上村晶(2013)前掲

²⁸ 中田(後藤)範子・柳瀬洋美・渡邊眞理(2014)前掲

を楽しむことができた時、それは保育者にとっても幼児と遊びの世界を共有する時間となる。²⁹

- 「終了・まとめ」であるがその活動をどのように終わらせるかということもよく考える必要がある。子どもが「楽しかった」「できてよかった」「またやりたいな」と思えるようにしめくくることが重要である。³⁰
- 模擬保育による学生の学びを明らかにすることを目的に、学生の感想レポートを分析した結果、自分達の子ども理解の大切さに気づき、そして保育者の関わりと援助について新しい問題意識をもつようになったことがうかがえた。(中略) さらに模擬保育をビデオで録画することで、全員が同じ場面を共有しながら意見を出し合い、自分自身の行為を客観的に「見つめ、見直す」ことができるなど、より高い学習効果が期待できると思われる。³¹
- 自身の保育力量や保育感を客観的に捉える視点が生まれ、自分の保育実践のイメージを修正し、新たな実践に対して展望を開くことができると考えられる。(中略) 質問紙に回答すること自体が課題を明確にする一助となったということも考えられる。³²

〈分析・結果〉

学生は模擬保育の中で、保育者役と子ども役の役割を体験することによって、様々な心情を体験し、客観的に自分の保育を見る視点を広げていることが分かる。また、導入やまとめについてもその大切さに気付いていることが把握できる。

(3) 課題

- 模擬保育体験前の「興味・関心を引く配慮」ではなく、「いかに保育者に

²⁹ 齊藤葉子・大木みどり(2011)前掲

³⁰ 山田秀江(2008)前掲

³¹ 三好年江・石橋由美(2005)

³² 田爪宏二・小泉裕子(2006)前掲

集中させて、保育者の意図どおりの保育を展開するか」という「工夫」でしかなかった。(中略)「設定保育」や「部分指導」を想定する際に、自分自身の行動と子どもたちをどう動かすか、の2点に意識が偏りがちであることがわかる。³³

- 「ふりかえり」によってすべての課題が解決できないことも解った。課題がすべて解決できるには、解決に向けた何らかのプロセスがもっと必要である。³⁴
- 模擬保育による保育実習の事前事後指導は効果があるが「子どもの様子」「子どもの姿」を予測しつつ、子どもを理解し、捉えることを指導するには限界を考慮しなければならない。³⁵
- 不満な理由として「②フィードバックシートを書く時間が十分とれない。③毎回書くのは負担が理由として挙げられている。来年度に向けて改善が必要である。³⁶
- 保育者の省察を深めていくためには、子どもの思いを読み取るという「子ども理解」を軽視できない。(中略)ビデオに映し出された援助の良し悪しを問うのではなく、子どもの心情理解を踏まえた上での保育者の在り方を模索していくことが、学生たちに求める今後の課題であろう。³⁷

〈分析・結果〉

学生自身が自分の実践を改善するために、模擬保育後の振り返りを行い、幼児理解や援助の方法など課題を明らかにして、解決へのプロセスに向かう姿勢の在り方を示している。また技能だけでなく子どもの思いをよみと

³³ 中藤広美・鷲野彰子(2015) 実習前教育における学生教育の課題と方法—環境構成に関する学生の理解状況を踏まえて—,福岡県立大学人間社会学部紀要24(1), 17-31

³⁴ 高原・小川・瀧・矢野・下釜(2014) 前掲

³⁵ 中田(後藤)範子・柳瀬洋美・渡邊真理(2014) 前掲

³⁶ 清葉子(2013) 前掲

³⁷ 上村晶(2010) 実習事前指導における模擬保育ビデオを活用したカンファレンスの実際と効果,高田短期大学紀要28, 89-100

ることの重要性も感じ取らせていく大切さが分かる。

論文全体を通して模擬保育は、学生の思いや意図通りに幼児をひっぱっていくことなく、幼児の言動をくみ取りながら面白さを感じ取らせながら進めていく大切さを述べている。模擬保育に実技も含んでいるので、何を模擬保育とするのか定義が必要だと考える。

【参考文献】

塚崎京子・無藤隆（2005）保育・幼児教育の研究の動向

—二つの学会誌10年間の動向の分析—

白梅学園短期大学 教育・福祉研究センター研究年報No.10, 24-47